

22 来松した外国人ハーニアンたちが見た松江—何を見て何を感じたか

【全1回】／開催方法：現地のみ

おかざきひでき
岡崎秀紀

学芸員
島根大学教育学部
嘱託講師



受講料 一般料金：¥2,600 早割価格：¥1,600(納入期限：11月26日)

【日程・時間】【全1回】 11月30日(土) 13:20~14:50

■受講に必要なもの

[テキスト] レジューメ配布

ラフカディオ・ハーン (小泉八雲) は1890年、松江中学の英語教師として来松しました。松江滞在中は、出雲地方の伝説、地誌の情報をもとに、『Glimpses of Unfamiliar Japan』(1894)をはじめ、多くの作品を発表して、世界に松江を知らしめました。八雲文学のファンはハーニアンと呼ばれます。彼らは、八雲の世界に触れる目的で、松江を訪問し、紀行文を書いています。例えば、John Eillsは、1918年松江を訪問し宍道湖の風景について、「ハーンが最初の一年を教師として過ごした松江は、ジュネーブに似ていなくもない」(1927)と書き残しています。

本講座では、松江を訪問した外国人ハーニアン、10名の人物と紀行文を取りあげます。アルゼンチンの学者J.M.Rohde (来松は未確認) のことは、初めての情報となります。各作品を掘り下げるのではなく、人物を中心に紹介します。参考文献を提供しますので、彼らが松江で何を見て、どういう印象を得たのか、また八雲をどう捉えていたか、などを一緒に考えたいと思います。

1. はじめに

松江・出雲を題材とした八雲の作品 (一覧)

2. 外国人ハーニアンの来松 (1891~)

- 1) Karl Florenz (1866-1939) 独、言語・日本学。帝国大学で八雲と同僚となる。1891年7月来松。
- 2) J.W.Robertson Scott (1866-1962) 英、日本農村研究。1915来松 (八雲会総会)。
- 3) John Eills (1868-?) 米、教師・ジャーナリスト。1918来松。「not unlike Geneva」(1927)
- 4) Elizabeth Bisland (1861-1929) 米、ジャーナリスト・ハーンの友人。1922来松 (来日4回)。
- 5) Burton Holmes (1870-1958) 米、写真家。1922来松。写真集『日本幻景』(1974)
- 6) Jorge Max Rohde (1892-1979) 阿、大学教授。来日1931年各地訪問 (東京・京都・宮島・山口など)。
『Viaje al Japón』(1932)
- 7) アンヌ・フィドフ・ノッシング 仏、パリ大学講師。1937来松。
「宍道湖はニューシャテル湖に似る」(1937)
- 8) P.D.Perkins (1897-1963) 米、三高教師など。1950来松 (ハーン生誕百年祭)。
- 9) Bernard Learch (1887-1979) 英、陶芸家・民芸運動。1934来松 (布志名船木窯など)。
- 10) Lewis William Bush (1907-1987) 米、英語教師。1958来松。『New Japanalia』(1977)
- 11) Allen E.Tuttle 愛英、八雲研究。1963来松。「Lafcadio Hearn and the soul of the far east」(1955)

3. 討論とまとめ